

# 街を行く

第103回 センチュリーシティ Century City

## 大人もワクワクする“ハコモノ”

ロサンゼルス郊外に開けた街センチュリーシティは、米国映画大手「20世紀フォックス」(今はディズニーにM&Aされています)のスタジオを取り囲むように形成されています。その土地柄、各界セレブやエンターテインメント業界人が多く集まり、独特で個性豊かな文化を発信してきました。

ダウンタウンとは違いクリエイターの目を惹く自由で斬新な形状の建物も多いです。そのためか、20世紀フォックス本社に代表されるオフィスビル街でありながら観光客も多く、ホテルやショッピングセンターのニーズの高さには目を見張るものがあります。昨今では高級コンドも多く開発され住宅地域としても人気です。商業施設は、一般的に人々の足が遠のく傾向があるなか、ショッピングセンター「ウェストフィールド・センチュリーシティ」(Westfield Century City)は大健闘していると言えるでしょう。有名ブランドや人気レストランはもちろん、新タイプのアミューズメント施設「ドリームスケープ」が呼び物で連日多くの人で賑わっています。

消費者にとって商業施設は、今やショッピングだけが目的ではなくなりました。単純に買物だけならばネットで十分ですからね。よって、人がその施設のコンセプトをどれだけ楽しめるかがポイントというわけです。ウェストフィールドはその意味で、大きく成功を収めていると言えます。

さて、人気を集める「ドリームスケープ」を簡単に説明すると、マルチプレイ型のバーチャルリアリティ(VR)ワールドが楽しめる次世代体験型アミューズメ



人気商業施設ウェストフィールドの呼び物のひとつ「ドリームスケープ」

ント施設です。4種類のコースがあり、小生は「Alien zoo」というコースを選びました。内容は、恐竜が生息していた古代アドベンチャーワールドを巡る旅をする、というものです。3Dグラス(ヘッドセット)を着け、背中にVR機器を担ぎ、手足にはVR体験の振動を伝えるグローブを装着します。スタートして異次元の世界に入ると、共に旅するVR参加メンバー(結構大人が多かったですよ)がまるで“アバター”のように見えるのです。この瞬間から身体も心も一気に没入、新しい感覚へ吸い込まれてしまいます。実際に古代の恐竜たちを間近に観ているようです。年齢が幾つになっても体験型のアミューズメントはわくわくして楽しいものです。おそらく近いうちに日本にも上陸すると思いますので、お待ちください。

このショッピングセンターを巡り楽しむなかで、つくづくハコ物だけの競争

は終わったことを痛感してほしいです。ちなみに、嬉しいことに、日本の大手和菓子屋さんもここで頑張っていました。日本国内の老舗店舗の多くが海外展開を果たしていますが、重要なのは日本での伝統を守ることではありません。この先、どれだけ現地化して老舗となってゆけるかこそが大事なのだと思います。何事も「継続が最大の武器」ですね。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。